

## 広島県森林組合連合会三次木材共販所で森林環境教育を行いました

令和3年2月18日  
広島北部森林管理署

令和3年2月17日、広島県立庄原実業高校「環境工学科」1年生31名への森林環境教育を、広島県森林組合連合会三次木材共販所において行いました。

今回の森林環境教育では、森林(もり)から伐倒・搬出・造材された木材が、木材市場において、その後の用途や需要状況に応じて選別され、更に競り売りで川下の加工者、製材者等に販売されていく過程や木材市場の機能などについて学びました。



真剣に説明を聞く生徒

森林環境教育に参加した広島県立庄原実業高校「環境工学科」の生徒は、市場に搬入されてきた木材が自動選別機で、長さ、径級毎に振り分けられていく作業を観て驚いていました。生徒からは「この丸太、1本ではいくらするのか。」、「この丸太は、この後、どのような用途に加工されるのか。」などの意見が出ました。



丸太の欠点(曲がり)の説明を聞く生徒



選別された丸太の用途の説明を聞く生徒



自動選別機の操作を確認する生徒

広島北部森林管理署と広島森林組合連合会では、引き続き緊密に連携し、庄原実業高校の生徒を対象にした森林環境教育に取り組んでいきます。